

# ニッポン

ドクター和の

# 臨終回巻



長尾和宏（ながお・かずひろ） 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。

32

武藤まき子



いよいよ今年も残り1ヶ月を切りました。みなさんも目まぐるしい師走を送られていることでしょう。しかし、最も健康に留意してもらいたい季節でもあります。一年のうち人が一番

くなりやすいのが、12～2月なのです。

厚生労働省の人口動態調査によれば、2016年の年間死亡数の約28%が12～2月に集中。最も減少する6～8月は約23%で、その差約5%、6万3768人に及びます。寒暖差によって血圧の急な変動が起き、心疾患を起す人が増加することも一因だと考えます。

ご家族が救急車を呼んで緊急搬送。搬送先の病院で死亡確認。「自宅で死亡」と診断されたそ

ごとに意識を失い、一緒にいたのは、その日の朝。自宅のベッドに横になっていましたが、昼

武藤さんが体調不良を訴えたのは、その日の朝。自宅のベッドに横になっていましたが、昼たばかりでした。

武藤さんも前日までお

いた芸能リポーターの武藤まき子さんが虚血性心不全で亡くなつたのは、2016年12月5日のこと。71歳の誕生日を迎えたばかりでした。

うです。

翌日

の新聞には「突然死」という言葉が大きく躍りました。

急性の症状が発現してから24時間以内に亡くなることを、突然死と定義しています。

突然死の大半が虚血性心疾患です。虚血性心疾患は、心臓の周囲を通っている冠動脈という血管が、動脈硬化などによって閉塞し、血液が行き届かなくなることで発生。心筋の収縮力が弱まり虚血性心不全となるのが、この病気の怖いところです。

まず胸の痛みや苦悶感、肩から上腕の痛み、恶心や嘔吐、人によっては下顎痛や歯痛が起ります。短時間（多くは1分以内）で死亡する場合は、突然倒れて意識を消失。悲鳴のようなうめき声、甲高いびき声からピンクがかって泡を吹くようなこ

のままです。

元気に過ごされていたそうですが、家族と一緒に自宅で発症したことが、何よりの救急です。仕事中のホテルで一人の時であれば、「異状死体」として警察沙汰になつたことがあります。

しかし武藤さんの逝き方は、決して不幸なものではありません。突然死とは予期せぬ、終末期のない「死」。言い換れば、これこそがピンピンコロリといふものです。

武藤さんは夕刊フジにもじく

なる直前まで連載を持たれています。タイトルは「つたえびとTVレポーターおまきが行く！」まさに武藤さんにぴったりのすてきな言葉ですね。

# つたえなかつた終末期